

平成 28 年度(2016 年度) 第 3 回とよなか都市創造研究所運営委員会  
議事要旨

日 時 : 平成 29 年(2017 年) 3 月 2 日(木) 13 時 00 分～15 時 00 分  
場 所 : 生活情報センターくらしかん 3 階 体験学習室  
出席委員 : 赤尾委員、肥塚委員、土山委員、泉委員、長濱委員  
事務局 : 足立、福山、泉、大平、熊本、比嘉、仲谷  
傍 聴 : 1 人

開会

案件(1)ふりかえり

資料:資料1「平成 28 年度(2016 年度)第 2 回運営委員会議事要旨」

事務局から資料に基づき説明があった。説明内容は略。質疑応答なし。

案件(2)平成 28 年度(2016 年度)調査研究について(報告)

資料:資料2「平成 28 年度(2016 年度)調査研究(報告)」

事務局から資料に基づき説明があった。説明内容は略。以下、質疑応答をまとめる。

「公共データの活用のあり方に関する調査研究」

- ・委員:データ分析シミュレーションの目的のひとつに、事業の意味づけにつながるとある。  
ならば、南部などの施策や事業についてもここで並行して検討していなければならないのでは。
- ・事務局:報告書では少し触れている。
- ・委員:公共データの活用は、全国の自治体で抱えている課題でもある。最初に全国の現状をまとめた方がよかったのでは。  
オープンデータの利活用という点では、成功した先行事例を後追いした方が効率的。  
この研究は職員の意識向上という点で意味がある。形式知にして、参加した職員だけでなく市役所全体に拡げることが重要。

#### 「南部地域の活性化に向けた調査研究」

- ・委員：現時点の結果は、数字を言葉に置き換えただけで、なぜそうなっているのか、という深い見立てがないので、アクションプランにつながらない。次年度の質的調査に期待する。
- ・事務局：今年度の量的調査では結果分析に限界がある。報告書ではもう少し深く考察しているが、今後質的調査で補完することが必要。
  
- ・委員：結果はだいたい予想がつく内容。他に予想外の内容というものはあるのか。  
アンケートで総花的に調べるのも大切だが、今後の施策につなげられる突っ込んだ調査も必要。例えば子育て世代が多い地域の要素を調べて、人口誘導の施策に反映するなど。
- ・事務局：以前行った人口異動調査の結果では、交通の便が良いところで子育て世代が増えているという結果になった。南部地域は、利便性はよいが子育て世代が出ていくので、他に要素があると考えられる。
  
- ・委員：調査結果をまとめる前に、背景知識として人口的な分布、例えば世代の分布、音大生の量的なインパクトなどの概況の説明があれば、結果の質的な意味を理解しやすい。
- ・委員：加えて、居住者の社会経済的な背景など地域の特性がわかる情報、バックグラウンドとなる統計的データ、先行調査の情報などもあるとよい。これまでの報告からは、利便性など生活上の要件というよりも、まちなみや雰囲気といった間接的な要素が人口増減に影響しているようである。これらの改善は、政策的には時間のかかる、長期的な課題といえる。

#### 「地域経済構造分析に関する調査研究」

- ・委員：経済構造をこのように示されると豊中市がわかりやすい。豊中市の状況を改善するためには、弱いところを強くするだけでなく、強いところをもっと伸ばす方向が地域特性を活かすことになる。豊中市の強みは大阪空港で、空港をどう利活用するか、という選択肢の研究も是非やっていただきたい。
- ・委員：今後の要望として、地域経済を考えると、業種ごとの従業員の数や異動もいっしょに考えてほしい。
- ・事務局：従業員数はRESASでわかる。従業員の異動は、他の統計と組み合わせれば調べられると思う。
  
- ・委員：RESAS内の行政職員だけが見ることができるデータを活用してほしい。  
また、RESASで分かったことが、これまでの豊中市で行っていた経済分析と一致していたかどうかも考察してほしい。

案件（３）平成 29 年度（2017 年度）事業計画について（案）

資料：資料 3「平成 29 年度（2017 年度）事業計画（案）」

資料 4「（仮称）とよなか大学院の概要（案）」

事務局から資料に基づき説明があった。以下、主な質疑応答をまとめる。

- ・委員：機関誌をホームページにアップする件はどうなったのか。
- ・事務局：今年度からアップすることになった。
  
- ・委員：研究所の調査結果を実現するために企画調整課がエンジンになって回していかないと、研究成果が絵に描いた餅になる。
- ・事務局：研究成果がそのまま施策になることはないかもしれないが、どこかでリンクしていく。総合計画には、子育て、都市の再生という二つのテーマがある。これらの事業を進めるには、職員がいかにアイデアを出していけるかがポイント。ここに研究成果を活かして生きたい。
  
- ・委員：まちづくりは市民だけ頑張っても難しい。とよなか大学院には職員も参加して、市民と自治体がいっしょに汗をかいて育っていくことが大事。
- ・事務局：職員だけでなく、議員にも関心を持っている方がいる。
  
- ・委員：これまでの調査研究をどう活かしているのか。以前にも似たようなタイトルの研究が多いが、つながっているのか。指標の経年変化をとるとか、過去の知見を活用するなど、データの蓄積を活用し、発信してほしい。
- ・委員：節目を設けることも大事。外部評価を入れるなど、研究所の活動を客観的に見直す機会をもつことも検討してほしい。

案件（４）その他

事務連絡

- ・今回で第 5 期目の運営委員会が終了。市民委員から挨拶があった。
- ・委員：委員になって初めて、豊中市は内部に調査研究機関を持ち、未来のことを外部に任せず自分達で考えていることを知り、いいことだと思った。もっと他の市民にも知ってもらえたら満足度も高まると思う。
- ・委員：限られた時間と回数で、どこまで適切な意見が言えたかと思うこともある。それでも、市民の責任として、よく見て意見を言っていかなければいけないと思う。研究所は、市政のパイロット的存在であり、期待しています。

閉会